

交流文化学科		教授	長崎 睦子	大学院の授業担当 無
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	英語科目	2012年～	学生の日常の英語使用の機会を増やすため、主にスピーキングやディスカッションクラスを対象に、授業ではプレゼンテーションやディスカッション(成果発表)を定期的に行い、授業外では、成果発表に向け原稿を書かず口頭で一人またはペアで繰り返しリハーサル(練習)をするリハーサル法を実践している。また、ピア・アセスメントも実施している。	
2	講義科目	2009年～	どの講義科目においても、グループでのディスカッションを行い、講義内容に関して主体的に考え、意見を述べる時間を設けている。	
3	全科目	2013年～	「自己の振り返り(self-reflection)」の実施。毎授業の最後に、授業内容や自分の理解およびパフォーマンスを振り返り、学習したと思う内容や疑問点、意見を自由に書いて述べる時間を設けている。それに対して、毎回フィードバックをしている。一人一人注視することで、学生の理解度を把握し、学習への動機づけを高めることができる。また、やり取りを遠し、疑問や不安を取り除くことで、授業途中でのドロップアウトを防ぐことが目的である。オンライン授業では、LMSを利用し振り返りを実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	Communicating Collaboratively. Nagasaki, M., Armitage, K., & Webber, S. (2020). 愛媛大学英語教育センター	2020年	大学1年生を対象にした共通教育英語必修科目(スピーキング)の教科書である。学生の基本的英語コミュニケーション能力の向上を目指し作成された。具体的には、身近なトピックや一般的な関心事について、明確に自信を持って、英語でクラスメートとお互いに意見を述べあうことができる、また、自身およびクラスメートのコミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に授業に取り組むことを目指している。	
2	英語パラグラフ・ライティングの講義ビデオの作成	2020年	大学1年生を対象にした共通教育英語必修科目(ライティング)において、コロナ禍での遠隔授業に対応するため、パラグラフ・ライティングの構成やフォーマットなどの内容に合わせた動画教材を9つ(各15～20分程度)英語教員の有志チームで作成し、いつでも視聴できるようにLMS(Moodle)にアップした。	
3	合理的配慮が必要な学生およびリメディアル学生のための英語eラーニング教材の開発	2018～2019年	eラーニング教材を用いた英語コースを開発することにより、合理的配慮が必要な学生や英語リメディアル・レベルの学生に対して、より適切な学習環境を整え提供することが目的である。2018年度は、合理的配慮が必要な学生に向けたMoodleを利用した英語eラーニング・コースを、2019年度は、英語リメディアル・レベルの学生を対象にしたリメディアル・コースを作成した。	
4	『American Spirits in Movies 名作映画で学ぶアメリカの心』 石塚美佳・小林めぐみ・メイスみよ子・長崎睦子(2010)成美堂	2010年	アメリカ映画4作品(『風と共に去りぬ』『若草物語』『オズの魔法使い』『アラバマ物語』)を取り上げ、リスニング力の向上と内容理解を目的とした英語教材である。アメリカの歴史や文化についても学べるように工夫している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				

交流文化学科		教授	長崎 睦子	大学院の授業担当 無
1	同期型(教室/Zoom)と非同期型(Moodle)の組み合わせと、HyFlexを使用したスピーキング指導	2021年8月	JACET 60周年記念国際大会JACTET HOURS シンポジウム「明日の授業に役立つ遠隔の取り組み」にて、コロナ禍での遠隔授業で実践した取り組みについて発表した。(共同発表者:中山晃)	
2	新学習指導要領の改訂ポイントと「これからの英語教育」- 4技能統合学習/アクティブラーニング/自律学習/異文化コミュニケーション能力の観点から	2018年2月	ICU富山真知子教授ご退職記念シンポジウムにて、新学習指導要領の改訂ポイントについて説明した後、カリキュラム改訂の中から4つのキーワード(4技能統合学習、アクティブラーニング、自律学習、異文化コミュニケーション能力)に焦点を当て、その目的や実践において考慮すべき点などについて議論した。(共同発表者:村岡有香、松野まい、松岡弥生子、田島千裕)	
3	平成27年度愛媛県外国語指導助手の指導力等向上研修における講演	2015年12月	愛媛県のALT約100名および中学校英語教師約100名を対象に、“From a language learner to a language user: The use of focused tasks”という題目で講演を行った。まず、日本の英語教育の現状および文科省の掲げる「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」について解説した後、グローバル化に対応したコミュニケーション能力をつけさせるためには、どのようなタスクが中学校ではできるか例を示した後に、ワークショップ形式で参加者にもタスク例を考え、作成してもらった。	
4	平成27年度愛媛県高等学校教育研究会英語部会研究協議会における講演	2015年9月	愛媛県の高等学校英語教師約70名に対して、「コミュニケーションを養う授業とは」という題目で講演を行った。小・中・高・大の英語教育を取り巻く現状について概観した後、コミュニケーション能力の育成を第一の目的として展開している愛媛大学共通教育英語カリキュラムについて紹介した。次に、コミュニケーション能力の育成を念頭においた場合、どのような活動が高校ではできるかについて提案した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項				
1	愛媛大学学長特別賞受賞(教育部門)	2020年12月	上記2.2で作成したビデオ教材等を用いた遠隔授業への取り組みが評価された。	
年月日		活動内容		
—現在		JACET(大学英語教育学会)		
—現在		AAAL (American Association for Applied Linguistics)		
—現在		JALT(全国語学教育学会)		
<p>・2021-2024年度: 科学研究費助成研究 基盤研究C (21K00787) 研究代表者, 「オンライン学習プラットフォームを使った持続可能な英語指導とユニバーサルな評価の確立」</p> <p>・2018-2020年度: 科学研究費助成研究 基盤研究C (18K00871) 研究代表者, 「ペアリアルハーサルとピアレビューを用いた英語対話能力育成プログラムの開発と効果検証」</p> <p>・2015-2017年度: 科学研究費助成研究 基盤研究C (15K02681) 研究代表者, 「英語スピーキング能力を伸ばす授業法: その指導法と成果の可視化に関する実証的研究」</p>				